

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000070		
法人名	株式会社 考学生会		
事業所名	グループホーム フォレストI		
所在地	大阪府東大阪市若江東町4-2-5		
自己評価作成日	平成22年1月18日	評価結果市町村受理日	平成22年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関に付属しており、医師、看護師、P.Tの意見取り入れ、ADL、体調の維持向上を行っている。また、行事、外出の機会を増やすため、近くのコンビニ、スーパーへ一日一回以上の買物、月2回程、外食、外出。週1回のドックセラピー、デイケアとの交流、地域のお祭りへの参加を行っている。日常では、毎食三回の食事作り、朝に、浮腫み改善体操、創作活動等に参加して貰っている。
介護理念：
私たちは「あたたかい心」、「明るい笑顔」でその人らしい活気とゆとりのある生活環境を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月に開設された当該ホームは、医院やデイケアと併設され、医師や看護師が在中し、日々の生活を安心して送ることができています。ホームでは、1日1回は必ず買い物や散歩に出かけ、外食や地域行事に参加したり、初詣など季節に応じた外出ができるように取り組んでいます。また、利用者に楽しんでもらえるように、様々な取り組みを行っていますが、特に毎週ボランティアでのドックセラピーの来訪でいつもと違う利用者の様子が見られ職員も癒しの時間となっています。日常生活の中でも、食事を楽しんでいただくため、食事の献立を決める段階から利用者の意見やアドバイスも取り入れ、テーブルに電磁調理器を置くことで男性の利用者も積極的に味付けや盛り付けなどに参加するなど、同じ空間にいる事で会話も多くあり皆が協力して食事作りをしています。利用者職員が1つの事に取り組む事で楽しみ家庭的な雰囲気を大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「法人理念」 私達は、高齢認知症、介護予防の人にとって、なくてはならない存在でありたい。「介護理念」 私たちは、「あたたかい心」、「明るい笑顔」でその人らしい活気とゆとりのある生活環境を提供します。	法人の理念や介護理念を元に職員はケアの実践に努め、フロア入口や廊下に掲示しています。現在、各フロアごとの理念を考えています。	理念について、ミーティングや会議などで話し合い職員の思いや考えを振り返る機会を持たれてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパー、コンビニへの買物や、地元のお祭りの見学、や初詣でに参加し交流を図っている。	1日1回はコンビニやスーパーに出かけ店員と顔なじみになっています。地域のお祭りやだんじりの見学、初詣に出かけています。また、地域の方から声をかけてもらっていますが、参加できていません。	開設から1年未満であるため、今後の地域への繋がりを持つ為の取組が期待されます。地域の行事に積極的に参加されたり、地域の方を招待されたりと、さらに様々な企画を立てて交流されてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	設立し1年満たないホームで力不足の為、実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催、現状報告、意見等をきいている	家族や自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから利用者、活動、研修、講義、ドッグセラピーについてなどを報告し参加者から情報や提案を頂いています。	運営推進会議を地域との交流機会として、情報交換だけでなく、一般の地域の方なども交えて、グループホームの役割や認知症についてなど、情報発信の場としても活用されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する報告、相談を高齢介護課へ連絡、訪問、指導を仰いでいる。	市の担当者とは、ホーム状況を報告し相談してアドバイスや指示をもらっています。	運営推進会議の議事録などを市の担当者に持参して、行政にも積極的に関与してもらうことで、他の地域資源の活用など、担当者に協力して頂いてはいかがでしょうか
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本となる、「抑制防止マニュアル」は、作成しているが、まだ職員研修を行うまでは、至っていない。	利用者の行動を制止するのではなく安全面に配慮し状況に応じた行動ができるようにしています。家族には身体拘束についての同意を頂き「抑制防止マニュアル」を利用して、言葉遣いも含めた研修をする予定です。また、見守りを怠らずフロア入口を施錠しないケアをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する、資料を準備し職員に回覧、虐待防止の徹底を図っている。		

グループホーム フォレストI

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、「成年後見人」が必要と考えられる利用者様が入居されており、関係機関へ相談等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を用いてサービス内容、利用料に関する事項、契約・解約に関する事項、その他に関する事項の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の何気ない会話から、利用者様の意見、要望を引き出し対応している。又、家族様の面会時に意見、苦情の傾聴、意見箱を配置し反映できるよう取り組んでいる。	各フロアー入口に意見箱を置いています。家族の来訪時や日々一緒に生活する中で何気ない会話からも意見や要望を聞くようにしています。意見などがあれば職員同士で伝えたり日誌などに残しています。	全職員が共有するためにも意見や要望を記録に残し、話し合いを持ちながら改善策を家族に伝えられる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス(改善)提案書を設け、意見や提案を記入して貰い、フロアミーティング等で議題にあげ、話し合いで反映できるよう取り組んでいる。又、会議がある際は、前もって全職員報告し参加して貰えるよう促している。	カンファレンスで意見や提案を記入してもらい、前もって全職員が参加できるように呼びかけ月に2~3回のフロアミーティングや月1回の全体会議で議題に挙げ話し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に、業務担当、行事企画を主で遂行して貰えるよう勤務調整し前もって勤務表を配布している。又、自己啓発出来るよう、情報の提供、勤務の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを中心に個々に力が不足している部分を話し合い、改善できるよう促している。今後、外部研修にも積極的に参加する予定をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居住系地域密着型サービス事業者部会に参加し、今後情報交換、勉強会を行っていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、利用希望者、家族様、担当介護支援専門員、ヘルパー等の介護職員、主治医から情報を収集し安心して入居できるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに家族様等と連絡、面談を行い、不安に感じている事、困った事を引き出すように努め、不安を取り除けるように対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	連絡・面談時に収集した情報を基に職員間でカンファレンスを行い、今後の対応を検討している。又、訪問看護、往診の必要があれば、関連施設に連絡依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯、掃除、飾りづけ等の日常生活で行っていた事を職員と一緒にやっている。上手く出来ないことは職員が替わって行う。普段から出来る事はして貰える声掛けを行い、出来ない事だけを介助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に現在のグループホームでの生活の近況を面会時、フロア便り等で報告している。今後定期的に、家族会、行事への参加をして頂けるよう企画していく予定。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、御親戚、近所付き合いがあった方々に面会に来て頂いている。外出時には、馴染みのある場所を出来るだけ配慮している。	併設の医院に通院していた時の馴染みの方や近所付き合いしていた方がホームに来訪があり、継続して交流ができるように支援しています。また、1日1回買い物や外出で馴染みの店に出かけて交流に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	炊事、洗濯、レクを行う際、利用者同士のコミュニケーションがスムーズに又、入居者同士が良好な関係が築けるよう、パイプ役になっている。		

グループホーム フォレスト I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡し現状の報告を受けるようにしている。訪問の必要があると感じた際は、出向いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と落ち着いて話ができる機会を設け、話の中から希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、グループワークの中で検討課題として取り上げ検討している。	日々一緒に生活する中で、状況に応じた行動が把握できるように努めています。利用前、利用者や家族からの情報や会話を通じて意見や要望を聞きながらフロー会議やミーティングで話し合い意向や希望が把握できるようにしています。	センター方式など記録様式を活用して、利用者や家族の思いなどを整理して、より一層のサービスの質の向上を目指されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、親族等の身近な関係の方から、情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、医療からアプローチし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画書の見直しを行うため、カンファレンスを開き見直しを行っている。参加できない方は前もって意見を求めている。	家族の希望も取り入れカンファレンスで話し合い一人ひとりに合わせた介護計画を作成しています。また、3カ月に1回の見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を介護記録、支援経過記録に分けている。介護記録には、日々の様子を記入し、支援経過記録には、介護計画の援助内容を取り入れ経過、気づきを記入している。、今後の介護計画に反映させる予定。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している、デイケアでの行事等に参加しているが、現在他のサービスを希望される利用者様が居ない為、対応していないが、今後、希望があれば、前向きに取り組んでいきたい。		

グループホーム フォレスト I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ民生委員等の方に参加して貰い情報を得て、地域のお祭り等への参加等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に説明、同意を得てホームの協力医療機関の津森医院を利用して頂いている。希望があれば、他の医療機関へ柔軟に対応している。	利用前家族に法人の協力医がいつでも対応してもらえることを説明し納得した上で変更しています。院長は気さくに利用者の顔を見にホームを訪れ、訪問看護と24時間連携が取れ職員にも看護師がいる事で安心した日々を送っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護による健康管理や相談を記録に残し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様、医療機関からの情報や職員が直接状態確認等を行い情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアの説明を行い重度化、終末期の対応の確認を行っている。又そのような状態の際は、再度家族様等に意向の確認を行い意向に沿うよう対応している。	利用前家族にホームの方針を説明し、同意を頂いています。その時の状況になれば医師や家族と相談し支援していきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応できるよう意識づけするよう普段から閲覧、声掛けを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自衛消防隊を配置し年2回避難、消防訓練を実践している。	建物全体の職員で構成されている自衛消防隊を作り、消防署立会いの下年に2回、避難訓練をしています。	地域の方にも参加を呼び掛け、一緒に消火器の使い方や避難経路の確認などをされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内の個人情報保護規定に沿って職員に周知徹底を行っている。又、普段から利用者様への接遇に気を配っている。	言葉遣いは、丁寧で利用者に応じた言葉かけやその時に応じた対応ができるように心がけています。また、個人情報の記録物はキッチンの鍵の掛かる書庫に適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で思いや希望を聞きだしている。また自己決定が難しい利用者様には選択肢を用意して希望を聞き出せるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の食材の買物や企画を立てての外出・フロア行事にはできるだけ本人の希望を優先して参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問利用を利用しているが希望のある方には個別に望む店に行けるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに参加出来ない利用者様も雰囲気味わってもらえるよう食事作りはなるべくフロアで行うようにしている。	各フロアごとに利用者や職員の希望を取り入れた献立を考えています。その場においてもらう事で会話も弾み準備や味付け、盛り付けなど出来る事に参加してもらっています。職員も同じテーブルに着き同じものを頂き楽しい時間を過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった食事形態を提供している。一日の食事摂取量については全員の記録をとっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできていないが、朝・夕はできるだけしてもらえるようにしている。		

グループホーム フォレスト I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、排泄リズムの把握に努めるとともに、排泄のサインなどからも速やかなトイレ誘導を心がけている。	利用者の身体状況や安心感があるためリハビリパンツやパッドなどを使用していますが、排泄チェック表を利用して時間を見計らって誘導したり、表情や行動から把握しながらトイレでの排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通剤に頼らず、センナ茶を飲用していたり、毎朝体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を特定せず、毎日入浴が可能なように準備を行っている。拒否がある方に対しては声かけを変えてみたり、入浴剤などで興味をもってもらえるように工夫している。	昼食後から夕食位まで毎日準備しています。週に2回は入浴できるように支援し、希望があれば毎日可能となっています。また、入浴拒否傾向の利用者には、入浴剤の使用や職員の手な工夫で入れる様にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は特に設けておらず、個々のタイミングで就寝されているが、入床が遅くなるようであれば、働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を表にまとめるとともに、処方箋を個人別にファイルに綴じて目的、副作用が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、調理などを一緒に行い、入居者が得意なことが役割獲得につながるように、援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品や食材の買い物、散歩などを中心に外出を行っている。	利用者からの外出希望がなく、職員からの声掛けで毎日1回はスーパーやコンビニへの買い物、散歩に出かけています。また、季節に応じた初詣や外食などにも出かけています。また、今後利用者からの要望が出るように取り組んでいきたいと考えています。	

グループホーム フォレストⅠ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には本人が安心できる程度の額を自己管理していただいている。また、買い物時など私物に関しては本人管理の金銭から支払いをしていただき、買い物の援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の同意を得て、入居者より訴えがあった際は常識の範囲内で、いつでも電話連絡が取れるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に季節やイベントに合わせた飾りつけを入居者とともにに行い、季節が分かるように支援している。	どこにいても日差しがいっぱい差し込み明るく、リビングは対面式キッチンで、利用者と共に準備できるように電磁調理器を使い皆が自然と集まる場所となっています。また、テレビの前にはソファを置きゆっくりと出来、一人でも利用者同士で過ごせる空間があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル横にソファセットを設置し、集団の中でも一人で休める場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの収納の他に、本人が使用していたたんすなどを使用していただいている。	利用者に応じ工夫した表札が掲げられています。洗面とクローゼット、ベッドが備え付けられラジカセやぬいぐるみなど家族と相談しながら自由に持ち込んでもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分かりにくい方に対しては居室前に看板や写真を掲示し、見当識への援助をしている。		